

2022年度

「心の扉を開いたら」

琉球新報

2022 1/29日

2020年に看取った妻

.....

山城 栄真

1/29(土)

心の扉を

開いたら

患者会・福祉団体便り

妻がパーキンソン病と診断されたのは2015年9月。4、5年前から具合が悪そうでしたが、妻はどのような表現したらいいのかわからず言えなかつたと思います。

背中が曲がり、手の震えなどがあつたので、整形外科の主治医から神経内科を受診するよう勧められ、コザウリニックを訪ねました。そこでパーキンソン病の診断がつき、難病指定の手続きを進めていきました。

デイケアに通いながら特別養護老人ホームのショートステイを利用したり、老健施設に入所したり。有料老人ホームにもお世話になりました。一時帰宅中に肺炎を患い、入院。回復しない状態で自宅に帰るか、別の施設に移るかの選択を迫られました。

そんな最中、特別養護老人ホームに入所できました。仕事の後、妻に夕食の介助とマッサージをして帰る日々が続いていましたが、コロナ禍で面会禁止になると、妻のことが気がかりでしつこかったです。

ある日、妻が救急搬送され、医師から「今日が山場」と言

2020年に看取った妻

われました。何が何だかわからない状況でした。

息継ぎ管栄養のため、誤嚥性肺炎を繰り返していました。家族で話し合いを持ち、医師から勧められた買らうほしなと決めていました。しかし、1カ月後、主治医から「このままでは、3日しかもませんか」との諸問を受け、買らうを造設するのを承諾するのでした。皆々まはこの様な時にはどういう決断をなしますか。妻は胃漏造設術を受けた3日目頃から高熱が出て、2020年10月に帰らぬ人となりました。

友の会では、車いすの妻と一緒に講演会を開いた時に出合い、その場で入会しました。その後、支部長から役員への依頼があり、講演会を見た役員の方々がせわしく動き回っている姿を思い、自分にもできることがあればと役員を引き受け、副支部長を務めることになりました。

加入歴も短い私ですが皆々まの協力を仰ぎながら頑張つていきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。最後に、2月には久しぶりに医療講演会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染者の増加により延期になりました。コロナが収束し、皆々まにお会いできるのを楽しみにしております。

全国パーキンソン病友の会県支部 山城 栄真